【 D 地域連携・協働 】　１．他の分野との連携　共通分野

発達障害のある子どもに対する教育と福祉、医療、保健、労働等の総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解するとともに、具体的なケースを通してその実際について学ぶ。

◆主な内容◆

・支援に関わる機関・組織（各機関の役割・意義・責任・強みや弱みなど）
・多機関による包括的支援体制
・多職種連携及びチームアプローチの意義
・利用者、家族の参画／家族の役割
・支援計画の活用
・地域で開催される協議会・会議（個別の支援会議、事例検討会議を含む）等
・就業支援ネットワークの構築及び、保健・医療と教育・福祉との連携

◆研修講座名（例）◆

「機関連携の意義と実際」（講義 90 分）

・発達障害のある子どもへの一貫した支援を保障するには、各専門分野の連携が必要であることを解説する。
・教育、福祉、医療、保健、労働等の関係機関及び家族が連携して支援に取り組むことで、より効果的な支援の提供につながることを解説する。
・有機的な連携を実現するためには各機関の役割を理解し、適確な役割分担と情報共有が重要であることを解説する。
・発達障害児の支援に携わる各機関の役割・意義・責任等や、連携に必要なポイントを解説する。
・教育分野の「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」と、福祉分野の「サービス等利用計画」「個別支援計画」における情報（内容）の共通点と相違点を解説する。
・他機関、他職種との連携においては支援計画を活用し、積極的に情報共有を図ることを解説する。

「個別支援会議」（演習９０分）

・連携の意義や具体的な連携方法を学び、機関連携の実際を体験させる。
・演習はロールプレイや連携に関する事例検討等を実施する。
1）機関連携による課題解決が必要な具体的なケース（災害、虐待、触法、就職等）をピックアップ、あるいは架空事例を用意する。
2）演習の進行は基本的に説明→演習→グループ発表→まとめ、でグループワークとする場合はファシリテーターを配置することが望ましい。

◆到達指標◆（教育関係者・福祉関係者共通）

初級：各機関・各職種の役割や連携のポイントについて説明できる。
中級：実際に他分野における各機関・各職種との連携の実践ができる。
上級：各機関・各職種との連携を実践するにあたって、実践の手順や留意事項等について提案できる。

参考資料　8，23，24，31，43，53，59，60，66，67，74，110，111，118，122